

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第二小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・4年生は「知識・技能」の定着については目標値を下回り、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の定着については目標値を上回る結果が出ており、授業改善の成果が表れたといえる。また、5年生・6年生はどの観点も目標値を下回る結果が出ており、今後も継続して授業改善に取り組んでいく。

(2) 課題

- ・「資料活用能力」では、知識・技能の観点でどの学年も目標値を下回る結果が出ており、資料の読み取りを正しく行う力を育てたい。そのために、用語・語句等の知識を繰り返し丁寧に指導し、その資料の目的や背景についても生活と関連付けることでより定着度を高めるよう指導を行う。
- ・「考える力や表現する力」では、資料で読み取った情報から「調べて分かったこと」「そこから自分が考えたこと・感じたこと」を整理し、発信することが課題と考える。また、ノートやワークシートだけでなく、新聞やICT機器を活用したスライドなど幅広い手段で自分の考えを表現する活動を設ける。
- ・「関心・意欲・態度」では、体験的な学習や見学の活動、動画教材等を積極的に活用しながら、問題解決型学習を取り入れる。また、学習課題を生活と関連付け、社会の一員として自分自身が社会のためにできること、すべきことを考えるよう学習意欲を高めるための働きかけを行う。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

目標値と比較 △：目標値以上 =：目標値同程度 ▽：目標値未満

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 △ 主体的に学習に取り組む態度 △	/	/
第5学年	知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 ▽ 主体的に学習に取り組む態度 ▽	知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 = 主体的に学習に取り組む態度 = (第4学年時)	/
第6学年	知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 ▽ 主体的に学習に取り組む態度 ▽	知識・技能 = 思考・判断・表現 = 主体的に学習に取り組む態度 = (第5学年時)	知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 = 主体的に学習に取り組む態度 ▽ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回る結果が出ている。四方位や工場の工程については概ね理解できている。地図の読み取りや、人口の変化の資料の読み取りなどの理解が不十分である。	目標値を上回る結果が出ている。販売や工場の仕事の工夫については概ね理解できている。写真や年表から時代を判断することが苦手な児童が多かった。	目標値を上回る結果が出ている。記述式問題では資料を基に店ではたらく人の工夫を見つけられていた。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年生6年生ともに目標値を下回っている。5年生は「くらしをささえる水」「ごみのしよりと利用」の理解が不十分である。「都道府県の様子」については目標値に近い結果となった。6年生は「世界の中の国土」「日本の食料生産」の理解が不十分である。	5年生6年生ともに目標値を下回っている。複数の資料やグラフから関連付けて情報を捉え、判断していくことが苦手な児童が多かった。	5年生6年生ともに目標値を下回っている。記述式問題においては資料を基に複数の事象を関連付けて説明することが苦手な児童が多かった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
問題解決型の学習を通して、用語・語句等の知識を分かりやすく指導する。その際、言葉の意味や事象の背景を理解できるように心掛ける。地図帳の読み取り、地図記号、都道府県については年間を通して繰り返し指導をし、定着を図る。	資料の読み取り方の指導を丁寧に行う。社会的事象や課題について自分の考えをもって把握するために、友だちと意見を交流する活動や、体験的活動を多く取り入れる。自分の意見をまとめる際は、どのような視点で書くのかを明確にした上で表現させるようにする。	社会的な事象が身近に感じられるように、実際に体験したり見学したり ICT を活用したりする学習を取り入れる。また、資料の出し方を工夫することで、社会的事象への関心を高め、その中で調べたいことを考えさせたり、働く人の立場に立って考えたりできるようにする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な用語・語句については、繰り返し指導をし、集めた情報を自分の言葉でまとめる活動を続けることで確実な理解を目指す。また、「世界の中の国土」「日本の食料生産」歴史上の重要人物については、フラッシュカードや白地図、動画や写真の資料を活用し、繰り返し定着させる。	中学年に引き続き、資料の基礎的な読み取りを繰り返し定着させる。その上で複数の資料から読み取ったことを関連付けて考えさせ、説明や議論の活動を行うことで、社会的事象を多面的に捉え、社会への関わり方を選択・判断できる力を養う。学習感想やまとめは、事実と意見を分けて書くように指導する。	資料や課題の出し方を工夫する。動画教材やICTを活用し資料をできるだけ視覚化したり、身近な教材を扱ったりして、学習意欲を高めながら活動に取り組めるようにしていく。また、児童主体で学習問題や学習計画を立てたり、学習感想を書いたりすることで、学習内容を自分事として捉え、地域社会の一員としての自覚を養う。